

7-1.JavaSilver試験とは

JavaSilverとは

JavaSilverは、Javaのライセンスを持つオラクル公認のJava認定資格です。

[公式サイト](#)

他にも2つの認定資格があり、

- JavaBronze . . . 入門、初心者
- **JavaSilver** . . . 中級者
- JavaGold . . . 上級者

という位置づけでよく認識されています。

また、それぞれの試験においてJavaの各バージョンの試験が提供されています。

(SE7/8/11)

Java8などもまだまだ普及していますが、**基本的には最新バージョンの受験で問題はありません。**

このカリキュラムでは、**JavaSilver SE11** の対策を基本としています。

試験概要

試験形式：選択式

問題数：80問

試験時間：180分

合格ライン：51点(65%)

試験範囲

項目	詳細
Javaテクノロジと開発環境についての理解	Javaテクノロジと開発環境 Java 言語の主要機能
Javaの基本データ型と文字列の操作	変数の宣言および初期化 (基本データ型のキャストとプロモーションを含む) 変数のスコープ Local Variable Typeインタフェースの使用 文字列の作成と操作 StringBuilderクラスのメソッドを使用した文字列の操作
配列の操作	1次元配列の宣言、インスタンス化、初期化および使用 2次元配列の宣言、インスタンス化、初期化および使用
メソッドの作成と使用	引数や戻り値を持つメソッドとコンストラクタの作成 メソッドのオーバーロードとメソッド呼び出し static変数とstaticメソッド

項目	詳細
継承による実装の再利用	サブクラスとスーパークラスの作成と使用 抽象クラスの作成と継承 メソッドのオーバーライドによるポリモーフィズム 参照型のキャストとポリモーフィックなメソッド呼び出し オーバーロード、オーバーライドおよび隠蔽の区別
例外処理	例外処理の仕組みとチェック例外、非チェック例外、エラーの違い try-catch文による例外処理 例外をスローするメソッドの作成と呼び出し
簡単なJavaプログラムの作成	mainメソッドを持つ実行可能なJavaプログラムの作成 コマンドラインでのJavaプログラムのコンパイルと実行 パッケージの宣言とインポート
演算子と制御構造	演算子の使用 (演算子の優先順位を変更するための括弧の使用を含む) 分岐文(if, if/else, switch)の使用 繰り返し文(do/while, while, for文および拡張for文)の使用とネストした繰り返し文およびbreak, continueの使用
クラスの宣言とインスタンスの使用	参照型の宣言とインスタンス化、およびオブジェクトのライフサイクル(作成、再割り当てによる参照解除、ガベージ・コレクションなど) Javaクラスの定義 オブジェクトのフィールドへの読み取りと書き込み
カプセル化の適用	アクセス修飾子の使用 クラスに対するカプセル化の適用
インターフェースによる抽象化	インターフェースの作成と実装 具象クラスの継承とインターフェース、抽象クラスの継承 ListインターフェースとArrayListクラスの使用 ラムダ式の理解
モジュール・システム	モジュール型JDK モジュールの宣言とモジュール間のアクセス モジュール型プロジェクトのコンパイルと実行

試験の特徴

試験問題は、細かい仕様の理解を問うものが多く、引っ掛けに近い問題も多数あります。

中には、実務ではあまり使われないような表現のコードもあります。

しかし、細かい仕様の知識は、今後現場などでのスムーズなコーディングや、バグを探す時などに十分役立つもので、学んでおいて決して損はないと思います。

クラスの継承やインスタンス、インターフェースに関わる問題は特に頻出で、必須で押さえておくべき知識となります。

また、Javaカリキュラムであまり触れていないかった分野として、2次元配列やモジュール、ラムダ式などについての分野があります。

上記分野なども含め、JavaSilver試験で押さえておくべき知識をまとめているので、是非活用して下さい。

試験の受け方

会場、もしくはオンラインで受験することが出来ます。

受験方法は、下記サイトなど参考にして下さい。

https://manabiya-sakura.com/information_technology/id=1554/

カリキュラムの進め方

まずは頻出ポイント解説を一通り学習しましょう。

あくまで目標は試験合格(65%以上の正解率)なので、どうしても理解できない分野は後回しにしてもかまいません。

一通り学習を終えたら、模擬テストを受けてみましょう。

模擬テストは2種類掲載しています。

どちらも、65点以上(80%)を取れるまで、繰り返しやってみましょう。

模擬テストの内容を一通り理解すれば、十分本試験でも合格できるほどの知識が身についているかと思います！

最終更新日時: 2022年 09月 10日(土曜日) 16:38